

巻頭特集 ● 奥の細道むすびの地記念館オープン

# 松尾芭蕉が愛した大垣

今春、大垣市船町にオープンした「奥の細道むすびの地記念館」。  
Wor5月号ではこの記念館の魅力とともに、なぜ大垣が「奥の細道」のむすびの地なのかを探っていく。



開館記念企画展「松尾芭蕉が愛した大垣」は5月20日(日)まで開催。「野ざらし紀行」と「奥の細道」の故郷大垣を訪れたときの芭蕉の動静、芭蕉と大垣の俳人たちとの心温まる交流の様子などを、貴重な資料で紹介



芭蕉館では、「奥の細道」全体の約4割、16章を取り上げて展示。全国的に見ても、奥の細道全体を取り上げたミュージアムはめずらしい。むすびの地・大垣の章では、むすびの句と大垣との関わりを、大画面の映像とともに紹介

## 大垣という地を愛し、多くの宝をこの地に残してくれた芭蕉

文化は、成長の真つ最中。発展の兆しが見える勢いあふれるまち・大垣が、新しい俳諧文化を築きたいと考えている芭蕉にとっても大切な場所だったのだろう。

奥の細道の旅の立前に、むすびの地を大垣にすると決めていたことが、芭蕉の手紙から推測できる。ただの偶然でも、旅路上の都合でもない、大きな決意とともに出立した旅の終幕は、親しい人々がいる場所、という思いがあったのだろう。長い旅を終え、大垣に辿り着いた芭蕉は、温かい出迎えを受ける。15日間

にわたって滞在したのち、船町湊から舟に乗り、大垣に別れを告げる。「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ」大垣の俳人たちとの別れを惜しんだ、奥の細道むすびの名句である。

### 松尾芭蕉の生き様を学ぶ奥の細道むすびの地記念館

芭蕉と親交が深かった俳人・谷本因郎跡にこの春オープンしたのが、「奥の細道むすびの地記念館」だ。「奥の細道」に関連する施設は「全国」に点在するが、その土地と芭蕉との関わりを紹介しているものが多い。し

かしこでは、千住（現在の東京都足立区）を出立してからむすびの地大垣までの奥の細道全体を、じつくりと学び進むことができる。

芭蕉館に入ったら、まずAVシアターへ。美しく迫力のある3D映像と、松尾芭蕉の名句で各地を辿る。3Dメガネの向こうに広がる世界は、実際に奥の細道の旅をしているかのような錯覚に陥るほどだ。常設展示室では、奥の細道本文とその関連資料を公開。一般的な古文の解説にとどまらない、古人と心を通わせることのできる空間に、学び深い展示が続く。もちろん、松尾芭蕉という人について、旅に生きた人生について、そして芭蕉と大垣との関わりについてなども展開。見れば見るほど知りたくなる、奥深くおもしろい展示内容だ。

「古人の跡をもとめず、古人の求めたる所を求めよ」これは、松尾芭蕉がある門人に贈った言葉だ（※2）。尊敬する古人のまねごとではなく、彼らが真実を追い求めたその姿勢に学び、独自の世界を創りあげるべきだ、という信念を示している。

大垣という地を愛し、言葉では語り尽くせない多くの宝をこの地に残してくれた松尾芭蕉。その跡を求めつつも、彼が見据えたその先を追い求めることが、現代を生きる我々の使命なのかもしれない。

※1 芭蕉が大成した芸術性の高い俳諧の概念を蕉風と呼んでいた  
※2 南山大師（空海）のこたばを引用したもの

### 紀行文学『奥の細道』大垣で旅を終えた芭蕉

元禄2（1689）年8月21日（陽暦10月4日）。今から約350年前、長旅ののち、ここ大垣に足を踏み入れた、一人の俳人がいる。江戸前期の俳諧師、松尾芭蕉。

人生を旅に捧げ、俳諧を高い芸術の域まで押しあげた、俳諧界の偉人だ。代表作のひとつに、「奥の細道」が挙げられる。150日、約2400kmにわたる旅で多くの名句を生み、その足跡を紀行文学に結実した。尊敬する古人のゆかりの地や古歌に詠まれた地を、自らの足で歩いた芭蕉。東北・北陸地方を訪れ、その景観を目に焼き付けた。ではなぜ、芭蕉はここ大垣を奥の細道の終幕地としたのだろうか。

早くから蕉風俳諧（※1）が花開き、根付いた大垣。芭蕉と親交が深く、大垣蕉門発展のきっかけとなった谷本因をはじめ、中川海子、近藤

如行、宮崎前口と、多くの俳人が芭蕉を慕っていた。芭蕉が初めて大垣を訪れたのは、1684年9月。「野ざらし紀行」（郷里・伊賀上野を訪ねた紀行文の際、念願だった木因邸へ赴き、約1カ月間滞在する。それ以前にも、蕉風俳諧確立のきっかけともいえる書簡を、いち早く木因（大垣）に送っている。芭蕉が活躍したのは、元禄時代。その頃の大垣と言えば、水運により船町湊が賑わいを見せて、さらには美濃と水運が交わるこの地での経済・



記念館前、水門川沿いにある句碑。「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ」とは「蛤の蓋と身、離れがたいものが離れるさま」という意味に、これから向かっていく「二見」の地名をかけている。大垣の親しい俳人達との別れを惜しんだ句だ



大垣のご当地アイドル「水都おおき芭蕉隊」のメンバーが、館内案内を担当します！

※不在日もあるため、ブログ等で要確認



**観光・交流館**  
大垣や奥の細道関連市町の観光情報発信や土産品販売を行う



**先賢館**  
大垣の歴史や文化を語るには欠かせない5人の先賢を紹介



**芭蕉館**  
紀行文学『奥の細道』と松尾芭蕉について知ることができる

## 奥の細道むすびの地記念館 大垣市船町2-26-1 ☎0584-84-8430



【開館時間】 観光・交流館... 9:00~21:00  
芭蕉館・先賢館 9:00~17:00  
芭蕉庵（土産売）9:00~17:00

【休館日】 無休（12/29~1/3を除く）

【芭蕉館・先賢館の入館料】

大人.....300円（18歳未満無料）  
団体.....150円（20人以上）  
年間パスポート1,000円

奥の細道むすびの地記念館（Web紹介ページ）  
<http://www.city.ogaki.lg.jp/0000012751>

水都おおき芭蕉隊 オフラインブログ  
<http://ameblo.jp/ogakisky/>